

「社会を理想に近づける努力～憲法を活かそう」

伊藤千尋 (国際ジャーナリスト)

ウクライナやパレスチナの戦火は止まず、戦後になっても憎しみの連鎖が続きます。世界の争乱を止める手立てはないのでしょうか。それは私たちの目の前にあります。憲法 9 条こそ憎しみの連鎖を断つカギです。

私はこの 50 年で世界 84 の国取材しました。どこでも聞いたのが「こんどは日本がアメリカに原爆を落とす番だ」という言葉です。やられたらやり返せ。それが今も世界の常識だから戦争が絶えないのです。「とんでもない。日本人は報復でなく、原爆をなくそうと考える」と答えると、驚かれます。

では、なぜ日本人は世界とは違う発想をするのでしょうか。それは 9 条がそれなりに根づいているからです。歴代の政権から攻撃されても、世論調査では多数が支持します。その 9 条が日本に平和の風土を作ったのならば、他の国も 9 条を持てばその分、世界は着実に平和に近づくでしょう。

ところが日本政府の方針は真逆です。9 条の中身を替え、南西諸島のミサイル基地化、自衛隊の軍備強化と米軍への従属を進め、日本を再び戦争に引き込む構えです。

これに対して 9 条を積極的に広めようと今、全国に展開している市民運動が 9 条の碑の建設です。9 条を身近に目に見える形にして、あらためて市民の認識を深めようとするのです。私が 3 年前に著書『非戦の誓い』で紹介した碑は 23 でしたが、昨年 1 年間だけで 14 生まれ、この 5 月 3 日だけで 6 つ誕生します。今や合計で 59 です。普通の記念碑は過去を忘れないために建てますが、この碑は現在の状況を変え未来を照らすのです。

四角い石だけではない。東京の碑はステンレス製の球体で、「9 条だから球状」というユーモアです。茨城県では航空自衛隊基地の中にできました。千葉県の女性が考えた碑は鐘付きの鳴り物入りです。みなさん楽しみながら平和の創造を目指します。ノーベル平和賞を受賞した被団協に加盟する長崎原爆被災者協議会は、被爆 80 周年の記念事業で今年、9 条の碑を建てます。

アメリカの押し付けと言われた 9 条ですが戦後の首相、幣原喜重郎の

発案であることが明らかになりました。「軍縮を可能にする方法は一つ。世界がいっせいに一切の軍備を廃止することである。ここまで考えを進めてきた時に、第九条というものが思い浮かんだ。今こそ平和のために起つときではないか。僕は天命をさずかったような気がした」という彼の言葉が政府の憲法調査会の資料に残っています。

マッカーサーも「日本の幣原首相がやってきて『この問題を解決する道はただ一つ、戦争をなくすことだ。私は、現在起草している憲法の中にこのような規定を入れたい』と言った」と米国の議会で証言しています。日本の政治家が考え出した先進的なアイデアです。誇りを持って世界に広めましょう。

憲法でもう一つ優れた条文は両性の平等を定めた 24 条です。ウクライナ出身の女性で GHQ スタッフだったベアテ・シロタさんの発案でした。時代遅れな日本政府の憲法草案に対して GHQ がモデル案を作ったさい、彼女が提案したのです。芸大のピアノ教師に着任した父に連れられて来日したのは少女時代。そこで見た男尊女卑の社会を変えたいと考えたのでした。

残念ながら今の日本は 9 条も 24 条も活かしていません。理想は掲げただけでは実現しない。社会を理想に近づける努力が必要です。平和憲法で軍隊を無くしたコスタリカは、法を整備して国会の議席も男女平等にしました。時代を逆戻りさせる政治を変え、世界に稀な憲法を活かすことが今の私たちに求められている。それを改めて自覚する憲法記念日にしたいものです。